

A) 積極的に防除作業を行い、島内からの排除を目指す種類

コケセンボンギクモドキ

キク科 *Erigeron bellioides*

原産地：カリブ諸島

特徴

ロゼット状の多年生草本。1980年に初めて沖縄島で見つかり、現在同島ではごく普通に見られる。公園や林道など人為的な攪乱をされた裸地を好み、しばしば本種だけの群落を形成する。

葉：ロゼットの直径は4～6cmほど。根元から生える葉はしゃもじ型で先が丸い。

花：一年を通して開花する様子が見られる。3～10cmほどの花茎の先に直径6mmほどの小さな白い頭状花をつける。

繁殖：種子繁殖。種子は小さく、風や土砂の移動、車のタイヤ、人の靴の裏などで容易に拡散する。



影響：本種だけの群落を作ることから、似たような環境に生育する在来種と競合し、駆逐する可能性がある。

侵入状況：奄美大島では、瀬戸内町で初めて侵入が確認された。現在は、名瀬市街地でも点々と確認されており、分布が急激に拡大していると考えられる。

対策状況：未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ：ほぼ周年開花しているため、時期を問わずできる限り早めに対応することが望ましい。できる限り丁寧に根まで取り除く。